



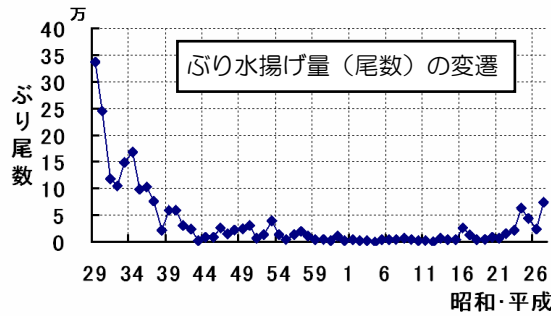
## 伊豆東岸定置網でのぶり豊漁

今年の冬から春にかけて、伊東の市場には、伊豆東岸の定置網で漁獲された大量のぶりが水揚げされています。4月末時点での水揚げ量は7万尾余りと、漁獲が多かった昭和30年代に匹敵するレベルです。

伊豆東岸の定置網でのぶりの水揚げ量は、昭和50年代から減少し始め、平成に入ってから、年間数千尾程度と水揚げの少ない年

が続きました。ところが、平成22年以降、徐々にぶりの水揚げが増え始め、特に今冬は過去50年来の豊漁となりました。

5月に近づくにつれ、大型の「ぶり」の水揚げは減ってきましたが、「わらさ」の水揚げは依然として多く、ブリ資源の豊富さがうかがえます。



【解説】ブリ：幼魚期は「もじゃこ」、成長とともに「わかし、わかご」(体重500g以下)、「いなだ」(体重500g~3kg)、「わらさ」(体重3kg~6kg)と呼び名が変わり、体重が6kg以上になると「ぶり」と呼ばれる。産卵のため、冬から春にかけて南下してきた「ぶり」が伊豆東岸の定置網に入網する。

### 浦和実業学園高校の生徒が見学

4月16日に埼玉県の浦和実業学園高等学校の1年生29名が、伊豆の水産を学習する目的で現場を訪れました。同校は教育プログラムの一環として伊豆で4日間の宿泊研修を行っており、研修先の一つとして現場に来ました。

現場職員が研究内容や伊豆の水産について説明を行い、生徒たちは熱心にメモをとっていました。



### テングサの作柄予測調査終わる

伊豆半島のテングサの作柄を予測するため、3月から4月にかけて、下田から土肥にかけての計10地区、28漁場でテングサの生育状況を調査しました。調査は、潜水によりテングサの着生面積・密度を記録するとともに、1㎡の枠内のテングサを採取し、重量と平均藻長を測定しました。今後、得られたデータを集計・解析し、漁協や漁業者に情報提供します。



**5月の予定** ・熱海地区でヒラメの放流が行われます。 ・静岡県定置漁業協会の総会(8日:伊東市)で、ブリ資源について講演を行います。 ・マダイ栽培漁業を推進する伊豆地域栽培漁業推進協議会が11日に伊東市で開催されます。 ・19日に下田市田牛で沼津市中学生を対象にした臨海学校(田牛観光協会主催)が行われます。 ・26日の下田市の食生活推進員への研修で水産物の栄養について講演を行います。

**会場には、自由に見学できる展示施設があります。**